

第51回全日本ライフセービング選手権大会 各ブロックにおける予選会実施について

公益財団法人日本ライフセービング協会
ライフセービングスポーツ本部
2025.06.24版

- 1.本戦の実施概要について
- 2.本戦における出場可能な種目数と参加費について
- 3.テクニカルオフィシャルの選出について
- 4.保険について
- 5.参加資格（個人）について
- 6.出場できる団体／クラブ構成について
- 7.競技規則について
- 8.競技器材について（バトン、ブイ、レスキューチューブ、など）
- 9.本戦出場枠について
- 10.募集要項、エントリーフォーマット、運営マニュアルの開示

1.本戦の実施概要について①

- 日程：2025年10月11日(土)～13日(月祝)
- 会場：片瀬西浜海岸（神奈川県藤沢市片瀬海岸）
- 競技種目：

〔個人種目〕

- ・サーフレース※
- ・ビーチフラッグス
- ・ビーチスプリント※
- ・ビーチラン（2km）※
- ・サーフスキーレース
- ・ボードレース※
- ・オーシャンウーマン
- ・オーシャンマン

〔チーム種目〕

- ・レスキューチューブレスキュー ※
- ・ビーチリレー ※
- ・ボードレスキュー ※
- ・オーシャンウーマンリレー ※
- ・オーシャンマンリレー ※

- ※印の種目は、中学生の参加可能種目とする。
 - ユース指導責任者と保護者が、参加する全てのレースに立ち会えること。
 - 本人が、ユース選手権大会における、U15の部で入賞を目指せる実力を持つこと。
- 種目の登録数は競技者1人につき2種目を基本とする。3種目以上に出場する場合は、追加参加費（1,000円/1種目）が必要となる。
- 〔チーム種目〕各団体／クラブから1チームのみのエントリーとする。

1.本戦の実施概要について②

- JLAでは、全日本選手権の「本戦」を主催・運営いたします。
- 本戦に勝ち上がるための「本戦出場枠」を、JLAが定める9つのブロックごとに割振りをいたします。
 - 北海道・東北
 - 北信越
 - 北関東
 - 南関東
 - 東海
 - 近畿
 - 中国
 - 四国
 - 九州・沖縄
- 9つのブロックごとに競技会（JLA認定競技会など）を行い、またはブロック内に所属の各クラブと相談調整のうえで、本戦出場者を決めていただきます。

2.本戦における出場可能な種目数と参加費について

- 本戦では、種目の登録数は競技者1人につき2種目を基本とする。3種目以上に出場する場合は、追加参加費（1,000円/1種目）が必要となる。
 - 本戦の参加費は次の通りとする（予定）。
 - 【競技者個人】 1名につき 10,000円 ※保険代含む
 - ※ [チーム種目] のみに出場する競技者も、個人参加費を支払うこと。
 - 【 [個人種目] 追加参加費】 3種目以上に出場する場合は、1種目ごとに1,000円
 - ※ [チーム種目] は含まれない。
 - 【 [チーム種目] 参加費】 1種目につき 6,000円
-
- 各ブロックにおける予選会では、競技者1人における出場種目数の上限は任意とする。
 - またそれに伴う参加費の設定も任意で構わない。
 - （参考）JLA主催競技会の場合
 - 一般 個人種目2つまで ￥8,000～￥10,000 ※競技会によって変動
 - 高校生 個人種目2つまで ￥7,000
 - 中学生 個人種目2つまで ￥6,000
 - 追加参加費 1種目追加 ￥1,000
 - チーム種目 1種目につき ￥4,000～6,000 ※競技会によって変動
 - 出場するブロックと異なる都道府県協会所属の者が出場する場合は価格差をつけても構わない。
 - 管轄する都道府県協会内に登録している 追加費用なし
 - 管轄する都道府県協会外に登録している 追加費用あり（例：個人参加費＋￥1,000）

3.テクニカルオフィシャルの選出について

- 本戦では、参加競技者数（本戦会における個人種目の出場合計人数）に応じてテクニカルオフィシャルの選出をお願いする方針である。人数比率は検討中。
-
- 各ブロックにおける予選会では、予選会が運営できるよう自由に設定して構わない。
 - 旅費交通費、食費、宿泊費などの諸経費負担も各ブロックに一任する。
 - もし他のブロックもしくは本部に役職者（チーフレフリー、など）を要請する場合、その諸経費金額（負担するかどうかも含む）についても各ブロックに一任する。
 - （参考）JLA主催競技会では、以下を基本としている。

➤ 競技者5～10名	=テクニカルオフィシャル1名
➤ 競技者11～20名	=テクニカルオフィシャル2名
➤ 競技者21～40名	=テクニカルオフィシャル3名
➤ 競技者41名以上	=テクニカルオフィシャル4名

4.保険について

- 本戦では、参加者（競技者、競技役員）は以下の保険に加入している。これは実施年度の選手登録費または資格登録費（審判員資格含む）を支払った者に対して適用される（包括契約）。
 - 傷害保険
 - 感染見舞金補償保険
 - 団体賠償責任保険
 - 個人賠償責任保険

- 各ブロックにおける予選会においても、本協会の選手登録費または資格登録費（審判員資格含む）を支払済の者に対して、同様の保険が適用される。
 - 各ブロックにおいて個別に保険をかけても構わない。
 - もし各予選会において、上述の資格登録等を不問とする場合は、本協会の保険適用外となる。
- 各ブロックにおける予選会において、本協会の選手登録などを参加条件にする場合、本協会事務局に対して登録の照合を依頼することを可能とする。
- 本件保険を適用したい場合には、あらかじめJLAに対して申請が必要となる。予選会日程が決まり次第、JLAまで報告をすること。

5.参加資格（個人）について

- 本戦では、個人は以下の要件を満たさなければならない。
 - （本戦の）競技会1日目の当日において満12歳以上であること（小学生を除く）。
 - ライフセービングを志し、指定された資格を保有した状態で出場する競技会の過去1年以内に海岸やプール等水辺での監視・救助活動、または教育・普及活動に従事したものでなければならない（中学生を除く）。
 - 本協会のアカデミー資格を申込締切日までに取得し、登録をしていること。
 - 一般 認定ライフセーバー資格
 - 高校生 BLS資格及びウォーターセーフティ資格
 - 中学生 ウォーターセーフティ資格
 - 申込締切日までに、実施年度の資格登録費及び選手登録費の支払いが完了していること。
 - 中学生は、特別同意書を提出すること。

- 各ブロックにおける予選会における参加資格は、任意で決めて差し支えない。但し、本戦の参加資格要件を満たしていない競技者を本戦に出場させることはできない。またその枠を次点の競技者に譲ることもできない。そのため、予選会は本戦の参加規程に準拠することを推奨する。
 - 本戦の規程では、（本戦の）申込締切日までに資格を取得し、資格登録費及び選手登録費の支払いが完了しているかどうかをチェックする。よって、各予選会の締切日や競技会当日時点でこれらの手続きを済ませるべきかどうかは、各ブロックに一任する。
 - （例）ブロック予選会はB種認定競技会とするため、選手登録は不要とする。本戦出場枠に入ったことがわかり、本戦の申込締切日までに選手登録を済ませることで本戦会に出場することができる。

6.出場できる団体／クラブ構成について

- 2021年度からのシリーズ化に伴い、本協会加盟団体／クラブのうち、以下に限る。
 - 第1種クラブ（本来、第3種クラブだが講習会主管の為に第1種登録をしているクラブを除く）
 - 第2種クラブ
 - 第5種クラブ
 - 第6種クラブ
-
- 各ブロックにおける予選会においても、本戦と同様の受け入れとすることが望ましい。
 - 予選会で出場し本戦出場枠に入った場合、出場クラブを変更して本戦に出場することはできない。

7.競技規則について

- 本戦会では、JLA競技規則2024年版（2024.08.01版）に則り実施する（予定）。ただし、新しい競技規則もしくは改訂版が発行された場合は、以下の通りとする。
 - ① 新たな競技規則の発行日から当該競技会の開催日までの間が2ヶ月以内の場合、JLA競技規則2024年版（2024.08.01版）を適用する。
 - ② 新たな競技規則の発行日から当該競技会の開催日までの間が2ヶ月以後の場合、原則として新たな競技規則を適用する。
-
- 各ブロックにおける予選会においても、同様の競技規則を用いることが望ましい。
 - コース、ブイ設置や距離などは、可能な限り競技規則通りが望ましいが、フルスペック（A種認定競技会）の競技会運営までは求めない。競技者に公平な条件を作ることができ、また競技者たちが納得すれば、極論ブイ1つだけのレース実施も差し支えない。

8.競技器材について（バトン、ブイ、レスキューチューブ、など）

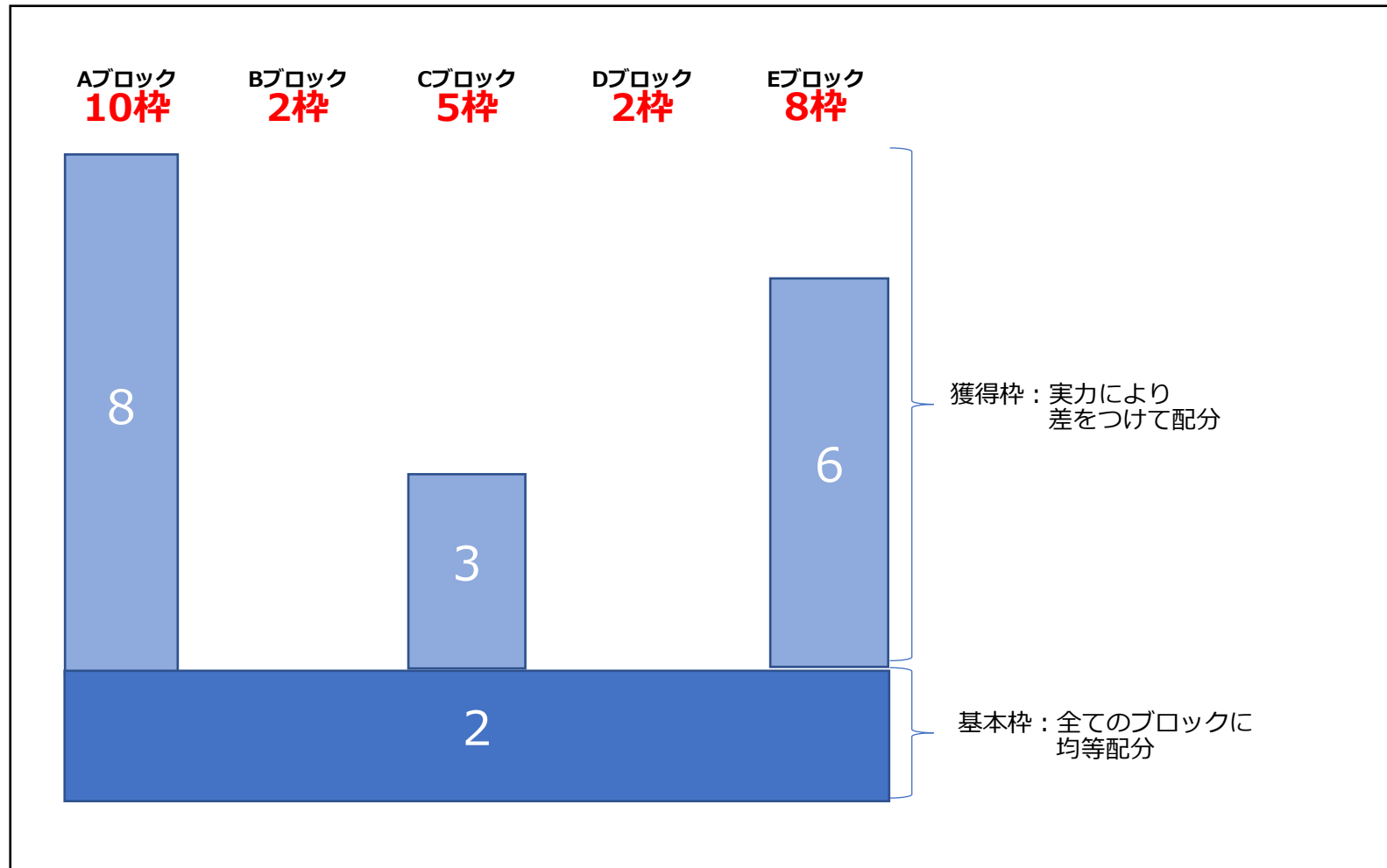
- 各ブロックにおいて準備できる競技器材を使って差し支えない。本協会の備品・器材の貸し出しを可能とする（送料や出庫手数料が発生する）。但し、貸し出し可能な数に限りがある為、各ブロックの予選会日程が集中する場合には応えられない場合がある。あらかじめ日程調整ができるとよい。

9.本戦出場枠について①

- 別紙「2025全日本ライフセービング選手権・本戦出場枠について」を参照すること。
- 今年度の「獲得枠」について
2024年度の全日本選手権競技結果を元に算出している。
- (参考) 2020年度以前との大きな変更点
 - 予選会と本戦の運営を分けることで、本協会では「総エントリー数」の把握が不可能となる。
 - よって、従来の「エントリー数に対する地区ごとの比率」による出場枠を決めることはできない。
 - 9つのブロックを公平にしつつ、前回大会の結果をもとのブロック毎の実力に応じて配分する。
 - 基本枠：本戦出場枠の1/3程度を、9ブロック均等配分する。
 - 獲得枠：本戦出場枠の2/3程度を、実力に応じて9ブロックに配分する。前回大会結果を参照する。
 - 本戦の結果を経て競技者が獲得したポイントは、獲得した時点で所属しているブロックへの付与とする（翌年度の全日本本戦出場枠の算出に用いられる）。
 - 競技者がポイントを獲得した次の年に所属クラブを変更して出場ブロックが変わった時、獲得したポイントはブロックを跨いで移動できない。

9.本戦出場枠について②

■ 本戦出場枠 割り振りのイメージ



種 目	枠	北海道 東北	北関東	南関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州 沖縄	本戦
女子サーフレース	基本	2	2	2	2	2	2	2	2	2	18
	獲得	0	19	17	3	7	0	0	0	0	46
	合計	2	21	19	5	9	2	2	2	2	64

基本枠
獲得枠

1	サーフレース			女子							配分枠		46
								38					
順位	ヒート	コース	チーム 番号	チーム名	ブロック	決勝P	入賞P	合計		合計	ポイント	割振係数	割振実数
1	1	24	17	九十九里LSC	北関東	1	1	2		北海道・東北	0	0	0
2	1	19	23	下田LSC	東海	1	1	2		北関東	16	19.3684211	19
3	1	15	2	熱川LSC	東海	1	1	2		南関東	14	16.9473684	17
4	1	27	57	若狭和田LSC	北信越	1	1	2		北信越	2	2.42105263	3
5	1	2	23	下田LSC	東海	1	1	2		東海	6	7.26315789	7
6	1	13	11	鹿嶋LGT	北関東	1	1	2		近畿	0	0	0
7	1	7	34	銚子LC	北関東	1	1	2		中国	0	0	0
8	1	9	31	館山SLSC	北関東	1	1	2		四国	0	0	0
	1	8	47	波崎SLSC	北関東	1		1		九州・沖縄	0	0	0
	1	25	34	銚子LC	北関東	1		1			38	46	46
	1	11	42	日本体育大学LSC	南関東	1		1					
	1	21	17	九十九里LSC	北関東	1		1					
	1	1	55	湯河原LSC	南関東	1		1					
	1	5	42	日本体育大学LSC	南関東	1		1					
	1	28	24	十文字高等学校LSC	南関東	1		1					
	1	3	34	銚子LC	北関東	1		1					
	1	4	7	大磯LSC	南関東	1		1					
	1	6	41	西浜SLSC	南関東	1		1					
	1	10	55	湯河原LSC	南関東	1		1					
	1	12	34	銚子LC	北関東	1		1					
	1	14	17	九十九里LSC	北関東	1		1					
	1	16	47	波崎SLSC	北関東	1		1					
	1	17	41	西浜SLSC	南関東	1		1					
	1	18	17	九十九里LSC	北関東	1		1					
	1	20	42	日本体育大学LSC	南関東	1		1					
	1	22	55	湯河原LSC	南関東	1		1					
	1	23	35	辻堂LC	南関東	1		1					
	1	26	24	十文字高等学校LSC	南関東	1		1					
	1	29	7	大磯LSC	南関東	1		1					
	1	30	24	十文字高等学校LSC	南関東	1		1					

各ブロックが獲得したポイント合計に対して、全ブロックのポイント合計に対する割合を算出し、その割合に応じて獲得枠合計を割り振る。

(例) 北関東ブロックの場合
ポイント数：16
全ブロックのポイント合計：38

北関東ブロックの獲得割合：
約42.10%

女子サーフレース獲得枠合計：46人

46人×42.10%=19.366÷19人

よって北関東ブロックは
基本2+獲得19= **21人の枠**

※本戦出場枠の端数の処理

- 獲得枠を比率に応じて配分を計算した際、小数点第一位の大きいブロックから優先して、端数の枠が配分される。
- ポイント数が同じ場合、8位入賞した競技者もしくはチームの数が多いブロックから優先される。
- ポイント数が同じで、8位入賞した競技者もしくはチームの数も同じ場合、その種目の最高順位を獲得したブロックから優先される。

9.本戦出場枠について③

■ 本戦出場枠の設計のねらい

- ブロックごとに基本枠を割り振ることで、**地方からの参加を促し、日本全体でライフセービングスポーツ振興を図る。**
- 予選会を各地で奨励することにより、ブロック内における都道府県協会の連携・交流を強め、**その競技会運営能力を高め、ライフセービングスポーツを楽しむ機会を増やす。**
- 競技者が本戦出場枠を獲得することでブロックに貢献し、ブロックは他のチームの競技者も応援する。このような応援を促すことで**地域交流を振興し、ライフセービングを盛り上げる。**
- エントリー数と実力が比例しないブロックで発生していた、本戦出場枠のブロック間における不公平さを、本戦出場枠を獲得するところからの競争とすることで解消していく。
- 決勝に進出する価値、8位までに入賞する価値を高めることで、競技会を盛り上げる。

■ 本戦出場者の選出スケジュールについて（予定）

① 2025年6月中旬

9ブロック全体を前提とした本戦出場枠一覧（第一案）を各ブロックに通達。

② 2025年7月13日(日)

各ブロックがJLAへ全日本選手権出場の意思を示す（種目毎にその権利がある）。

③ 2025年7月下旬

「②」を受けて修正した本戦出場枠一覧（確定版）を公表。

④ 2025年10月1日(水)

ブロックがJLAと所属クラブへ本戦出場者名簿を提出する。

10.募集要項、エントリーフォーマット、運営マニュアルの開示

- 本協会主催競技会で用いている各種マニュアル等を開示、配布する。
- 全てをそのまま活用しても良く、また全てに則る必要はない。参考資料として用いて構わない。
 - チーム募集要項（1次、2次）
 - チームエントリーフォーム
 - 競技役員募集要項（1次、2次）
 - タイムテーブル
 - 運営マニュアル
 - 安全規程
 - ...など